

寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

(匿名希望を除く。50音順、2022年2月末現在)

この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

稲本 孝好 様
小野 恵美子 様
小澤 良典 様
高橋 弘枝 様
千葉 鐘子 様
一般社団法人生産技術振興協会

編集委員のページ



渡部 雄一

(公社)日本WHO協会 事務局長

メーカー勤務(2003年SARSの時は上海で勤務)、学術団体事務局長を経て現職。

活到老学到老 (※生きてる間は頑張る(学ぶ)の意)

最近の気になる出来事としては、ワクチンナショナリズムに代表される自国ファーストの蔓延、COP26で採択直前に石炭火力発電がフェーズアウト(段階的廃止)からフェーズダウン(段階的削減)に変更されたこと、世界保健総会特別セッションではパンデミック条約などに関して政府間交渉機関(INB)を設立し2024年の世界保健総会に成果を提出することが決定したこと、などがあります。

環境負荷は地球の許容能力を超えており、また、パンデミックで取り残された多くの人びとが存在する状況のなかで、市民感覚で言えばもう少しスピーディに物事が決まらないものかと思いますが、普遍的な原則を掲げて地球上のあらゆる事象に対応できるほど現実には単純なものではないと自らを納得させています。また、交渉過程における“国家”というものの荷厄介さを改めて感じています。

一方で、“科学的・・・”というものの伝達の仕方についても考えさせられる場面が多くあります。厳密であることがどこまで必要なのか、分かり難さや誤解は情報の受け手の責任なのか伝える側の責任か、といったことです。

WHOの改革が始まっています。グローバルヘルスそのものも再定義すべき時期にきているように思います。『目で見えるWHO』ではこれらの話題をタイムリーに提供し、読者の皆様にお役に立つ、より魅力のある誌面づくりをしていきたいと思えます。また、この『目で見えるWHO』は、寄稿者の方々や編集委員の皆さんのプロボノ活動によって支えられています。人もお金も少ない協会です。皆様のご支援(ご寄付、入会、広告)を賜れば幸いです。